



撮影：丸尾隆一(YCAM)

「true／本当のこと」

2007年9月1日(土) 14:00 開演／19:00 開演
山口情報芸術センター スタジオB

振付・出演：	白井 剛 (AbsT／発条ト)
振付・テキスト・出演：	川口隆夫 (Dumb Type)
ディレクション・照明：	藤本隆行 (Dumb Type)
音響・映像・ビジュアルデザイン：	南 琢也 (softpad)
音響・プログラミング：	真鍋大度
映像・プログラミング：	堀井哲史 (rhizomatiks)
機構設計：	齋藤精一 (rhizomatiks)、石橋 素 (DGN)
センサーシステム：	照岡正樹 (VPP)
衣裳デザイン：	北村教子

主催：財団法人山口市文化振興財団

共催：金沢21世紀美術館 [財団法人金沢芸術創造財団]、財団法人横浜市芸術文化振興財団、Hi Wood、
ダムタイプオフィス

共同開発：YCAM InterLab

助成：文化庁

制作：山口情報芸術センター



プログラミングとテクノロジーが、身体表現にあたえる新しい可能性ー

振動子+LED+センサー+映像+サウンド

トヨタコレオグラフィアワードで「次代を担う振付家賞」に輝いた白井剛とダムタイプの川口隆夫が、今を表現するアーティストと創り上げる新しいパフォーマンス。

山口情報芸術センター(YCAM)では、9月1日(土)、LED照明、振動子、音、映像、衣裳、そしてダンスと、各分野で注目の錚々たるアーティストが集結し、山口に滞在して制作する新作ダンス公演「true/本当のこと」を行います。

これは、パフォーマーの身体に取り付けられたセンサーとリンクする振動子、映像、サウンド、そしてR(ed)、G(reen)、B(lue)の3色の光をデジタル制御することで豊富なカラーバリエーションの光を生み出すLED照明など、近年、表現の手法として巧みに取り入れられるメディアテクノロジーを駆使し、その可能性を模索する舞台作品です。

- ・ いま、コンテンポラリーダンス界で最も注目されているダンサーの一人である白井 剛と、音楽とアートの領域をまたぐアーティスト/パフォーマーとのコラボレーションを行い、ダンスでも演劇でもない、ジャンルを横断する活動を意欲的に展開する川口隆夫をパフォーマーに起用。
- ・ LEDライトを舞台作品に取り入れ、低電力、低装備の照明器具でのツアー公演を可能にしたダンス作品「Refined Colors」で世界ツアーを続けているダムタイプの藤本隆行、音響と映像による表現を軸に、ライブ、美術館・ギャラリーでのインスタレーションをアジア、中東、ヨーロッパなど国内外で展開する南 琢也、そして、振動、超低周波を使用して触覚と聴覚の特殊性、共通性、相互作用を狙った作品制作を行う一方で、実験的なターンテーブルリストとしても活動する真鍋 大度と舞台や美術展、サウンドライブでも活躍するアーティストが参加。
- ・ プログラミングを主体に映像制作を行い、インスタレーション、ライブパフォーマンス、VJ、WEB など様々な形態で作品発表、デザインワークを手がける堀井 哲史、越後妻有トリエンナーレなどで光る風船を使った環境彫刻「GINGA」を発表するなど建築をベースにアート活動を展開する齋藤 精一、触覚系全般、低周波空気振動、生体情報のセンシングを中心に、近年は、“呼吸波”で、生理心理学的側面から生体情報のアート表現を展開する照岡 正樹、環境映像、パブリックインタラクションシステムの新たなあり方を模索しながら、制作活動を行う石橋 素と、テクノロジーを作品制作のベースとするアーティストが集結。



- ・ 衣裳を、ドラッグクイーンの衣裳作りをきっかけに、オペラ、ミュージカル、コンテンポラリーダンスなど数多く手がける北村 教子が担当。

クラブや建築、インスタレーションとその活動の分野を押し広げ、国内で実験的な表現活動を繰り広げる面々が揃いました。

ここでは、科学や技術の発展に伴い、急速に変化する現在の社会で、目や耳などの知覚器官を通して得られる情報から認識し、構築される事象について、これらのアーティストが改めて問い直し、提案します。

本作品は、山口情報芸術センターで世界初演を迎えた後、12月に金沢、横浜をまわります。どうぞ、「true／本当のこと」ご紹介いただきますようお願い申し上げます。

「true／本当のこと」プロダクションについて

映像、音響、照明、プログラミングなど YCAM 専属のスタッフチーム YCAM InterLab が共同開発に参加します。また、この作品はプロダクションとして、山口情報芸術センターと、金沢 21 世紀美術館、横浜赤レンガ倉庫 1 号館との 3 つの公共施設が共同で出資し、作品製作が可能となりました。

[世界と向きあうために]

藤本隆行(ディレクション・照明)

私たちは、世界の中に無限の色彩を見ているように思うが、実はそれはたった3つの光の波長の組み合わせを、脳が感知しているに過ぎない。そこからどれだけのバリエーションを生み出せるかは、入ってくる刺激に対する脳の能力にかかっている。しかしそれは、色が存在しない錯覚であり、単にそれをヒトが「現実(リアル)」だと思い込んでいる、というわけではない。実は「現実」自体が脳の作り出したそれらの感覚の積み重ねなのだ。それらは決して偽りではなく、世界はそのように創られている。そして、その「現実」の構造を理解することが重要である。

現在においては、情報・交通手段の発達で、多くの人にとって世界は狭くなったのかも知れないが、「現実」は、例えばあるヒトにとっては堅くって爪も立てられないようなものに、また別のヒトにとってはフワフワと正体不明で、分け入っても分け入っても何も見えないようなものになってしまった。国際情勢も日本の社会システムも、身近な自分の環境も少し先の未来も、何もかもが自分の力では、どうにも変えられないというような諦め…。この世界と自分が切り離されたような感じ。

でも本当のことを言うと、ヒトが世界をとらえる為のもっとも基本的な行為である、「見る」ことや「聞く」ことでさえ、自分の外側の物事を、ただそのまま頭の中に、鏡のように映しているわけではない。あなたは、この一瞬に立ち現れる事象を、あなた自身の頭の中で選り分けて加工・再構成し、常に新しいあなたの世界を見聞きしているのだ。私たちが、既にそこにあると思い込んでいる、動かさない「現実」の多くは、実は自分自身の中で日々生み出され更新されている。そう、なんの制限もなくただ受け入れている、と思っているそれらの多くが、あなたが今まで生きて作り出してきた様々なフィルターにより、加工精製されたものなのだ。実は、自然の創意は、私たちの脳の中にある。

もちろんそれは、事実のある一面でしかない。でも、自分自身が「現実」をそのように確信できれば、閉塞的で太刀打ちできないと思っていたこの世界との関係性を、もう一度見直す事が出来るかもしれない。

基本的に「虚構/お芝居」である事が前提の舞台上で展開される、「true/本当のこと」というパフォーマンスは、何が嘘で何が真実かという話ではありません。知らぬ間に自分も捕らえられているかも知れない閉塞感を振り切って走り出すために、「現実」のどれほど多くの部分が、あなた自身によって作り出されているのかを、改めて問い直すためのものです。

■アーティストプロフィール

白井 剛（振付・映像・ダンサー）

1976年長野県飯田市生まれ。1996年～2000年ダンスカンパニー「伊藤キム+輝く未来」の作品に出演。1998年「Study of Liveworks 発条ト（ばねと）」の設立に参加。「Living Room — 砂の部屋—」で、バニョレ国際振付賞(Prix d'auteur du Conceil general de la Seine Saint-Denis 2000)受賞。2004年「質量, slide, & .」をシアタートラム（東京）にて発表。2004年、2005年、香港のYuri NG振付「悪魔の物語」（ストラヴィンスキー「兵士の物語」より）、2005年伊藤キム振付「禁色」（原作：三島由紀夫）へダンサーとして出演。2006、2007年、現代音楽カルテット「アルデッティ弦楽四重奏楽団」とのコラボレーション公演を国内6都市（金沢、益田、東京、宮崎、飯田、伊丹）にて行う。2006年トヨタコレオグラフィールアワードにて「次代を担う振付家賞」受賞。2007年、第一回日本ダンスフォーラム賞受賞。2006年より、新型ユニット「AbsT」を設立し、2007年2月新作「しはに—subsoil」を発表した。2004年には、発条トとして、山口情報芸術センターと秋吉台国際芸術村との共同制作で滞在制作を行い「Runnin" ChorDrive」を発表している。

川口隆夫（パフォーマー・ダンサー）

1990年よりダンスカンパニーATA DANCEを共同で主宰し、多くのダンス作品を発表。1996年から現在までパフォーマンスグループ「ダムタイプ」にクリエイティブメンバーとして参加しているほか、2000年以降、独自にソロ活動を展開。特に2003年以降は音楽とアートの領域をまたぐアーティスト／パフォーマーとのコラボレーションを行い、ダンスでも演劇でもない、まさに「パフォーマンスとしか言いようのない（朝日新聞評2005年3月12日、評論家・石井達朗氏）」作品を発表している。主な作品に、2001年「夜色」、2003年「ディケノヴェス—見えないと言え」、2004年「D. D. D.」、2006年「Tablemind」がある。

藤本隆行（ディレクション・照明）

1987年、ダムタイプ(<http://dumbtype.com/>)に参加。1993年に制作を開始した「S/N」以降のパフォーマンス作品では、照明並びにテクニカル・マネージメントを担当する。また、池田亮司のコンサートや、Daniel Yeung(香港)、Ea Sola(フランス/ベトナム)、Choy Ka Fai(シンガポール)の最新パフォーマンス作品などにも、照明デザインを軸に参加している。近年は、ギターリスト内橋和久とUAとのインスタレーション／コンサート「path」(<http://path.ycam.jp/>)や、ダンスカンパニー Monochrome Circusとのコラボレーション「Refined Colors」(<http://www.refinedcolors.com>)で、音響との同期を多用したLEDのみの照明デザインを特徴とする作品制作を試みている。(いずれもYCAMにて滞在制作。)2007年は、「Drift Net」(Choy Ka Fai マルチメディアパフォーマンス commissioned by TheatreWorks) (シンガポール)などを展開。

南 琢也（音響・ヴィジュアルデザイン）

1989年より複数の名義で現代美術作品を発表。1992年よりグラフィック・デザイナーとして活動開始。1999年より、音響+映像ユニット「softpad」のメンバーとして活動開始。
softpad 略歴：1999年～2000年 オーディオ・ヴィジュアル・ライブ「How They Get the Way They Are」(京都/韓国/フランス/大阪)、2001年 インスタレーション「in the house」バレンシア・ビエンナーレ Body and Sin(スペイン)、DJ スタイル ライブ イスタンブール・ビエンナーレ egofugal、2004年～2005年 DJ スタイル ライブ Namura Art Meeting(大阪)、オーディオ・ヴィジュアル・ライブ「BCN」Sonar2006(スペイン)など。
<http://www.softpad.org>

真鍋大度（音響・プログラミング）

1976年東京生まれ。東京理科大学理学部数学科卒業。国際情報科学芸術アカデミー（IAMAS）DSPコース卒業。アーティストとして振動、超低周波を使用して触覚と聴覚の特殊性、共通性、相互作用を狙った作品制作を行う一方で、実験的なターンテーブルリストとしても活動中。また、プログラマー、音響として国内外の様々なアートプロジェクト、企業との研究開発プロジェクトに参加。デザインユニットDGNには、プログラマー、システムエンジニアの経験とアーティストとしての活動をミックスし、2004年春から参画。

ライブパフォーマンス：2004年 Ars Electronica 2004（オーストリア）、横浜トリエンナーレ「Nakaniwa」（横浜）「Lib-LIVE! #003」ICC（東京）。DJ：2004年 Ars Electronica 2004（オーストリア）。映像：2004年「sonar sound tokyo」恵比寿ザ・ガーデンホール（東京）など。

照岡正樹（生体情報センシング・振動系機構サポート）

学生時代からインスタレーション制作やレーザー照明などを行い、1998年に現SUACの長嶋氏らとVPP（芸術・技術系の同人）を結成。その後、様々なジャンルの共同制作、研究・開発を行い、あるいはメディア系の作品制作の際の技術的なサポートを行う。触覚系全般、低周波空気振動、生体情報のセンシングを主軸に、最近では“呼吸波”をテーマに、生理心理学的側面から生体情報のアート表現への活用を模索している。

インスタレーション：2001年「幽風箱-ゆうふうそう-」MAF2001（SUAC）（浜松）、2002年「蠢すきゃん」（共同制作）MAF2002（SUAC）（浜松）。生体情報系技術サポート：2001年～「PiriPiri Project」IAMAS（大垣）、2002年「Interactive Chaos」せんだいメディアテーク（仙台）、2006年「Tablemind」Uplink Factory（東京）など。

石橋 素（機構設計）

1975年生まれ。東京工業大学制御システム工学科、国際情報科学芸術アカデミー（IAMAS）卒業。大学で機械工学、画像処理工学を学び、IAMASへ進学。デジタルメディアを使った作品制作を始める。現在は主に、環境映像、パブリックインタラクションシステムの新たなあり方を模索しながら、活動している。作品制作の他にも、アート・プロジェクトにおけるエンジニアリングなども行なう。2004年よりデザインユニットDGNに参画。インタラクティブ・システムのデザインやデバイス制作などを行なう。

展覧会：1999年「G-Display」ICC（東京）、2003年「Absolut border」国連大学（東京）、2004年「D.G.N #01」丸ビル（東京／東京コンペ入選）、2006年「RFID VJ」Skipcity（埼玉）。デザインワーク：2002年～「Haat 青山店」VP Design（東京）、2003年「ルイ・ヴィトンと建築展」や2004年「ルイ・ヴィトンと万国博覧会展」のインタラクティブ・システム制作など。

堀井哲史（映像・プログラミング）

1978年生まれ。東京造形大学デザイン学科卒業。国際情報科学芸術アカデミー（IAMAS）DSPコース卒業。プログラミングを主体に映像制作を行い、インスタレーション、ライブパフォーマンス、VJ、WEBなど様々な形態で作品発表、デザインワークを手がける。

映像・プログラミング：2007年パフォーマンス「DriftNet」（シンガポール）、2006年「TableMind」Uplink Factory（東京）。VJ：「sonar sound tokyo」恵比寿ザ・ガーデンホール（東京）、「metamorphose」サイクルスポーツセンター（静岡）、「TaicoClub」こだまの森（長野）、2005年「in dust-real」WAREHOUSE（東京）。ライブ：2005年「Lib-LIVE! #003」ICC（東京）「.JP/+813」BankArt（横浜）、2004年「ARS Electoronica2004」（ドイツ）など。

<http://satcy.net/synchro/syn.html>

齋藤精一（デザイナー）

1975年生まれ。東京理科大学工学部建築学科卒業。建築デザインをコロンビア大学で学び、2000年からNYで活動を開始。建築に限らず、プロダクトデザイン、映像、インタラクティブデザイン他アートとコマーシャルに限らず様々な活動をする。現在、株式会社ライゾマティクス代表取締役、東京理科大学理工学部建築学科非常勤講師。2003年、ニューヨークのギャラリーキッチンでの展示や、越後妻有トリエンナーレ(新潟)で2キロの環境彫刻を披露するなど国際的にも活躍している。主なパフォーマンス作品としては、2006年「Tablemind」Uplink Factory(東京)で構成・映像を担当。

北村教子(衣裳)

専門学校在職中にドラァグクイーンの衣裳を作り始め、退職後はオペラ、ミュージカル、社交ダンスなどの衣裳にも触れ、川口隆夫「世界の中心」で衣裳参加をきっかけにその後もダンスパフォーマンス作品に衣裳担当として参加。衣裳制作作品：川口隆夫作品 2000年「世界の中心」、2001年「夜色」、2003年「Night Colours」「ディケノヴェス」、2004年「D.D.D」2006年「Tablemind」、ダンスシアタールーデンス作品：2001年「Es」、2002年「Distance」、2003年「Against Newton」「Against Newton II」、2002年 Solo&Solo(吉福敦子、平松み紀)「時空の詩学-手と手」2001年「時空の詩学-eyes」、岡田智代「ルビイ」、吉福敦子：2004年「スマイル」2005年「Ki」「Resonance-ver.s」。衣裳協力には、ダムタイプ「ボヤージュ」、水と油、など。

「true／本当のこと」

振付・出演： 白井 剛 (AbsT／発条ト)
振付・テキスト・出演： 川口隆夫 (Dumb Type)
ディレクション・照明： 藤本隆行 (Dumb Type)
音響・映像・ビジュアルデザイン： 南 琢也 (softpad)
音響・プログラミング： 真鍋大度
映像・プログラミング： 堀井哲史 (rhizomatiks)
機構設計： 齋藤精一 (rhizomatiks)、石橋素 (DGN)
センサーシステム： 照岡正樹 (VPP)
衣裳デザイン： 北村教子
プロダクション制作： 高樹光一郎 (Hi Wood)
special thanks： Alfred Birnbaum、太田奈緒美

共同開発： YCAM InterLab
技術協力： 有限会社タマ・テック・ラボ、DGN、ライゾマティクス
機材協力： カラーキネティクス・ジャパン株式会社
企画： 山口情報芸術センター、金沢21世紀美術館、横浜赤レンガ倉庫1号館、Hi Wood、
ダムタイプオフィス

日 時：2007年9月1日(土)14:00開演／19:00開演 ※30分前開場

会 場：山口情報芸術センター スタジオB
〒753-0075 山口市中園町7-7 TEL：083-901-2222 FAX：083-901-2216

料 金：全席自由 前売 一般2,300円 any 会員／特別割引2,000円 当日 2,500円

チケット情報：7月14日(土)～

チケットのお求め (any 会員、一般とも共通)：

インターネット <http://www.ycam.jp> (24時間受付) ※要事前登録

電話／窓口 山口市文化振興財団チケットインフォメーション(YCAM内)

TEL. 083-920-6111 ※10:00～19:00 火曜休館

- ・特別割引
青少年 (18歳未満)、シニア (65歳以上)、障害者及び同行の介護者1名が対象。当日券は各種割引の対象外となります。
- ・未就学児入場不可
- ・託児 有料 8月25日(土)までに上記チケットインフォメーションへお申し込みください。
- ・車椅子席・補聴システム 事前にお問い合わせください。

***8月12日(土) YCAM 茶話会～舞台が10倍楽しめる方法、教えます。**

「これからの舞台の作り方」 (仮タイトル)

※バックステージツアー付き

YCAM のシアター担当のスタッフ 2 名が、舞台作品鑑賞を楽しむためのポイントを、茶話会形式で解説する、鑑賞初心者、はじめての方向けのレクチャーシリーズ。

今回は、多くのメディアアーティストが舞台作品に参加している近年の状況を「true／本当のこと」を交えて紹介。舞台、照明、音響スタッフだけでなく、センサーや振動子などのメディアテクノロジーのプロフェッショナルが舞台制作に関わることで舞台作品にはどのようなことが可能になるのかお話しします。

当日は、「true／本当のこと」の滞在制作中の現場を見学。アーティストから作品の解説をいたします。

■お問い合わせ

山口情報芸術センター(YCAM) 広報 小滝

〒753-0075 山口県山口市中園町7-7 TEL : 083-901-2222 FAX : 083-901-2216

E-mai:information@ycam.jp http://www.ycam.jp/

※ 滞在制作中のご取材も承ります。上記までご一報ください。(滞在制作予定 : 8月8日(水)~30日(金))

<山口情報芸術センターへのアクセス>

■JR新山口駅から

- ・ JR山口線湯田温泉駅下車、徒歩20分/タクシー5分
- ・ JR山口線山口駅下車、徒歩20分/バス10分(中園町か済生会病院前下車)/タクシー5分
- ・ 防長バス/JRバス25分、中園町下車

■自動車利用

- ・ 山陽自動車道で防府東ICから30分/九州・中国自動車道で小郡ICから15分